

【鳴門市行政評価】

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名	行政評価推進事業		担当部署	企画総務部部 戦略企画課		
総合計画体系			根拠法令 計画など	鳴門市自治基本条例 第25条 鳴門市附属機関設置条例 鳴門市行政評価外部評価委員会運営要綱		
基本政策(大項目)	4	おおきく躍動みんなで創るまちづくり	事業期間	開始	平成	18年度
政策(中項目)	1	全員参加で創るまち なんと			終期	未定
(小項目)		情報の共有化				
施策	4	情報の共有化の推進				
基本事業	2	公正の確保と透明性の向上				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 内部管理 市職員 事務事業						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	職員に対して行政評価制度をより一層浸透させ、評価した結果を事務事業の改善に反映させることにより、効率的かつ効果的な行政運営が実現され、評価結果(公表)により、市民の方と事務事業について情報共有が出来た状態。						
事業計画	26年度に何を計画していたか	総合計画の実施計画に基づく事務事業のうち、引き続き平成26年度以降も継続する事務事業(事業費がゼロの事務事業は除く)を対象に、内部の視点による評価を行い、各事務事業の方向性を示し、評価結果を今後の見直しに反映させる。今年は大学生による事業評価を行い、若い世代の意見を聴取する。 こうした取組等により、全庁一体で進捗管理を行い、事業の総括を行う。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位
		改善案等が示されている事務事業の割合	50	50	50	50	50	%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	内部評価を実施するとともに、新たに「大学生による事業評価」を実施。大学生の意見により4事業を選定し、各事業について大学生の若い目線で意見やアイデアを出してもらい、従来とは違う角度からの事業評価を実施した。						
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
	指標名	25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	評価対象事務事業数	122	130	130	130	130	件
	2							
成果指標 対象にどのような効果があつたか示す指標		改善案等が示されている事務事業の割合	38	57	-	-	-	%
		目標達成率(実績/目標)		114.0	-	-	-	%
今年度の進捗状況		ほぼ計画どおり		事業全体の進捗状況		-		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額	0	0	0	0	366	366
		全体予算額	0	0	0	0	366	366
		決算額	0	0	0	0	197	197
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(6,878千円/人)	臨時職員(2,023千円/人)	総人件費		総事業費		
	0.3	0.0	2,063		2,260			

【鳴門市行政評価】

【事務事業名：行政評価推進事業】
(千円)

事業費推移	年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度
	事業費	245	197	200	200	200
	うち一般財源	245	197	200	200	200
	人件費	3,259	2,063	3,259	3,259	3,259
	総事業費	3,504	2,260	3,459	3,459	3,459

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		「大学生による事業評価」を実施するなど、新たな手法で事業評価を行った。内部評価は改善案を示す事業は減少した。 策定委員会を実施計画の実績と一緒に審議するなど、効率化を図った。
	効率性	B:概ね効率的だった		
②成果に対する評価	指標名	改善案等が示されている事務事業の割合		改善案を示している事業について目標を上回った。
	目標	50	%	
	実績	57	%	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		B		内部評価で改善案を示す事業が減少するなど、目標を達成していないので、B評価とする。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	現在、改善案を示す事業が減少しており、事業をブラッシュアップする一環として行政評価を行っていることから、より事業の改善を念頭に置いた行政評価を各課が行えるような体制にするべきだと考える。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度	行政評価の様式の変更を行い、事業の改善につながるよう検討した。			
	H28年度	27年度の実施状況を鑑みて、また事業を改善していく。			